

科目名	現代中国政治論特殊研究	担当者	ヤマモト 山本 タダシ 忠士	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本科目は、現代中国の国家・党・軍隊等の制度及び政治社会の知見を深め、研究者としての専門能力の向上をはかることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>現代中国について、幅広く内外の諸資料を参酌し、意見交換等によって、中国のたどってきた歴史と指導者及び中国共産党の一方支配の統治機構等についての理解を深める。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中国共産党の政治局常務委員の権能についてまとめる。 2) 党と人事档案政策を知る—個人情報を管理する政策についてまとめる。 3) 中国共産党が大学、新聞社等の各組織に党委員会を設置する現状を調査する。 4) カリスマ指導者を知る—毛沢東と鄧小平と習近平の思想についてまとめる。 5) 中国の将来について自分の考えをまとめる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>上記項目について、準備学修時間は1項9時間×5=45時間と想定する。 (*年間30コマ分)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学習媒体等】</p> <p>Manaba folio (レポート提出システム) を活用する。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>レポート課題の作成に際しては、テキストや参考図書等を参照するとともに、図書館等で中国関係の論文、新聞、雑誌等を検索し論点を整理し、担当教員と質疑・討論し作成する。</p>		
スケジュール	<p>レポートは、まず草案を提出し、その後に最終レポートを提出する2段階方式とする。</p> <p>*前期(教材1): 課題レポート(1)の草稿提出は7月末日、課題レポート(2)の草稿は8月末日を目途に提出する。課題(1)、課題(2)の最終稿は9月中旬までに提出する。</p> <p>レポートの作成に際しては、必要に応じて担当教員との質問、疑問等をメール等で相談する。</p> <p>*後期(教材2): 課題レポート(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬までに提出する。</p> <p>課題(1)、課題(2)の最終稿は、9月中旬までに提出する。</p> <p>レポートの作成に際しては、必要に応じて担当教員との質問、疑問等をメール等で相談する。最終稿は2019年1月中旬までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	1. レポートとしての形式が整って、読みやすいこと。 2. レポート内容が論理的で説得力があるかどうか。 3. 考え方に独自性があるかどうか。
	平常評価	20%	平常時のメール等でのやり取りの内容を評価。
履修者への要望	<ol style="list-style-type: none"> 1. 通信制大学院は、相互の顔が見えないところがあるので、受講生の確定した時点で、コミュニケーション方法について相談する。 2. 個別的に地方から上京された折でも、連絡があれば、懇親の機会を設けたい。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 毛里和子著 教材名： 『現代中国政治』（名古屋大学出版会 2004年）ISBN978-4-8158-0700-9 2,800円＋税
	現代中国の政治プロセスと国家・党・軍隊の制度及び政治社会を中心に研究する。 1) 現代中国の60年政治プロセスについて一毛沢東時代の政治プロセス，鄧小平時代の政治プロセス，ポスト鄧小平時代（江沢民，胡錦濤）の政治プロセス 2) 中国の国家・党・軍隊について一国家の制度とその機能，党，国家・軍三位一体の中の共産党政治的軍隊—人民解放軍，党と国家の政策形成のメカニズム 3) 変わる中国，変わらない中国—大変身する共産党，陳情の政治学，比較の中の中国政治，中国モデルをめぐって
参考図書	加々美光行編 『中国内外政治と相互依存』（日本評論社 2008年）ISBN978-4-535-04841-6 4,200円＋税
履修上のポイント	新中国建国の揺籃期における毛沢東時代の政治プロセスさらに毛沢東時代と一線を画した鄧小平の改革開放の政治プロセス，江沢民以降の政治プロセス等，国家・党・軍隊という三位一体となった中国統治システムの特徴を把握すること。
レポート課題 1	リポート課題（1）：「毛沢東と鄧小平の政治プロセスの特徴について論述せよ」 留意点 ：毛沢東型社会主義—大躍進，文化大革命の意図と結果。鄧小平と改革開放政策とその後の中国の脱社会主義から資本主義への道。特に両者のリーダーシップ，目指す方向の相違点，同一点について留意する。
レポート課題 2	リポート課題（2） 「中国政治制度の中の共産党について」 留意点 ：党の指導性，党の機構と構成メンバー，党の政策決定メカニズム，党と国家の関係に留意。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： ① 川島博之著『データで読み解く—中国の未来』（東洋経済新報社，2015年） 教材名： ISBN ISBN978-4-492-44418-4， 2,000円＋税
	21世紀の中国は，急速な経済成長によって政治的にも経済的にも大国となっているが，他方でその内部に抱える矛盾の大きさから，一部では近い将来の「崩壊」の危険すら観測されている。現在の中国が過去の歴史に深く規定されている以上，20世紀中国の歴史に対する洞察を深めることは，現在と将来の中国に対する理解と見通しを持つうえで不可欠の作業である。本教材は，米国政府の中国政策に深くかかわってきた著者の経験をもとに記述されており，その問題意識は中国理解を深める意味で示唆に富んでいる。日本と中国の関係は，経済的にも密接不可分な関係であり，中国の将来をどのように予測するかは日本の将来を左右するほどに大きな課題である。 本テキストを参照し，自分なりの中国の未来予測に挑戦してほしいと思う。
参考図書	① マイケル・ピルズベリー著，野中香方子訳『China2049』（日経 BP 社 2015年） ISBN978-4-8222-5104-8， 2,000円＋税 ② 国分良成編『中国は，いま』（岩波書店，2013年）ISBN978-4-00-431297-0 820円＋税
履修上のポイント	この100年の間に中国社会の矛盾・不平等克服のためにどのような取り組みがあったのか。教育大衆化の夢，学歴社会の誕生，改革開放政策は中国の格差を克服にどのような影響を与えたのか。データに基づき，中国脅威論は本当か，と疑問を投げかける。
レポート課題 1	レポート課題（1）：「中国は都市戸籍と農村戸籍の問題を解消できるか」 留意点 ：教材にある三つのシナリオを参照し，自分なりの未来予測をまとめる。
レポート課題 2	レポート課題（2）：「民主化は進むか—2030年までの中国の複数政党制と民主的選挙の可能性」 留意点 ：これまでの中国の政治的発展を参考にして，自分なりの未来予測をする。